

令和 5 年度

武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会

日 時 令和 6 年 3 月 27 日（水）

会 場 武蔵野市役所西棟 4 階 412 会議室

午前 9 時 58 分 開会

1 開会（略）

配布資料確認（略）

2 委員及び事務局自己紹介（略）

3 議事

（１）当協議会の目的及びスケジュールについて

事務局より資料 2、3 及び 4 について説明があった。

（２）令和 5 年度事業実績報告

事務局より資料 5 及び資料 7 について説明があった。

【会長職務代理者】 報告の中で大きく 2 点ほど聞きたいです。まず今回の課題の 1 の 1 番、右側の一番下のマルの「新規で事業広報用のポスターを作成し」とのことについて、実際に私は関東バスに掲示されているのを見て、桜まつりのポスターも近くに掲示されているのを見ました。比較すると桜まつりのりポスターのほうが目立っていると感じました。

今回広報用にポスターを作成し民間のバス会社に掲示依頼をしたと思うが費用対効果はどうであったか伺いたいです。併せて、今回は関東バスでしたが、高齢者もしくは高齢者にかかわる人たちはムーバスを利用すると思います。ムーバスでのポスター掲示を検討しなかったのも伺いたいです。

もう一つは、毎月の説明会がかなり好成績になっていて、特に親の家に関しては素晴らしい状況となっていますが、全体のサポーターの男女比について伺いたいです。

【事務局】 1 点目の新規のポスターの広告のところについて、前段の経緯として別事業で関東バスには市の事業にかなり協力していただいています。費用については無料で掲示いただいています。掲示の効果については、掲示したばかりですので、状況はこれから確認していきます。協力施設・団体やサポーターの拡大に繋がるようまずは様々なチャンネルで事業周知を行うことが重要であると認識しています。

ムーバスについては、一つの事業の広告は受け入れていなかったと認識していますが、市内の高齢者はムーバスを使われることが多いと思うので、掲示ができないか再確認をし

ます。

説明会の男女比について、2月1日時点での男女比が男性 126 名で、女性が 416 名となっています。実態として男性のほうが少ないですが、交流会の男性参加者にどのようにして制度を知りサポーターになろうと思ったのかインタビューをしました。

テンミリオンハウスでおもちゃドクターとしてボランティア活動をしていた男性のかたは、ボランティア活動をしていたところ施設の人に教えてもらい制度を知り登録したそうです。その他に定年退職を迎えたのをきっかけに、シルバー人材センターに登録し剪定の仕事をしていたところ、施設でも剪定のボランティア活動を求めていると聞いて、この制度に登録しているという男性もいらっしゃいました。社会福祉協議会が実施している「お父さんお帰りなさいパーティ」等、退職し地域に戻った方にできるだけこの制度を知っていただいて、地域活動をしていただきたいと考えています。

【会長職務代理者】 よくわかりました。関東バスさんの地域貢献度はすごいと感じています。また男性へのインタビュー等サポーターも生の声を聞くことが重要だと思います。

【事務局】 今後男性の参加意欲を促すアプローチ等のご意見がありましたら、事務局にご助言ください。

【会長】 そのほかご質問やコメント、感想等がありましたら、ぜひお寄せください。

【委員】 西久保福祉の会で、地域のボランティアを支えるという点でこのポイント制度を挙げていまして災害時要援護者支援の支援者の方たちもこのポイント制度を使わせていただいています。ですがコミセンの事業などいろんなことでボランティアをしてくださる方を探して困っている現状があります。その際にこの制度を足掛かりにボランティアの募集をしましたが、どの活動までにポイントを付与していいのかわからないと感じています。

今回の資料のなかで子どもの施設でのボランティアを希望するというご意見があったと思うが、私は市役所と一緒に親子ひろばをコミセンで月に2回やっている。地域の子育て世帯を見守る体制にシニアも加わってもらい、子育て世帯とシニアの顔の見える関係づくりをしたいと考えています。そのような活動にもポイントが付与できるのであれば、ぜひ使って地域の関係づくりにこの制度が役立つと思うが、介護保険の枠から出ているもので、ポイントが付与していいのか検討してなくてはならないと考えています。

【事務局】 今年度実施した親の家での出張説明会では、大変多くの方にサポーター登録をしていただきました。災害時要援護者支援体制整備に関するボランティアや親子広

場に関するボランティアについて、ポイントを付与する事例は他の協力施設等で既にありますので、そのような活動にもポイント付与してもよいと考えています。その他、個別の事例でポイント付与に悩む例があった場合は、事務局にご相談ください。

市の計画の話にも触れますが、高齢者だけとか障害者福祉だけとか子ども分野だけという枠を超えて、武蔵野市ならではの地域共生社会を実現に動いています。子ども分野の事業との連携がこの制度の拡充に繋がると認識しています。令和6年度以降、子ども分野の切り口でも事業拡大を図れるか検討していきます。地域社協の活動者を募るためのPRの面でもこの制度を活用していただきたいと思っています。また希望がありましたら出張説明会を引き続き実施していきますので事務局までご相談ください。

またこの制度の対象者については65歳以上の介護保険事業の財源であります。地域の方は年齢に関係なくボランティア活動をしている中で、65歳以上の方のみにポイント付与される点については、引き続き課題として協議していく。

【会長】 介護保険制度の枠内とはいえ、子育て支援の分野を対象にして問題ないという仕組みになっている。ただ、ボランティアの中で対象者と対象外の人が出てくるため、全体の納得が得られるよう事務局には引き続き協議をお願いしたい。

今回の健康福祉総合計画では、重層的支援体制整備事業という、世代を超えたさまざまな支援体制をどのように構築するかという点がある。その意味でも子ども分野の拡大は重要であると思います。

そのほか、いかがでしょうか。

【委員】 2点あります。事務局の説明でもありましたが西部地区でポイントの交換場所が少ないということで、サポーター交流会を武蔵野プレイスで行う際に、併せてポイント交換受付をしていただくのは大変ありがたいです。臨時でも構わないので複数回プレイスのフォーラムでポイント交換を受け付けてもらえないでしょうか。というのもサポーターの方で、お体が一部不自由な方がいまして、長距離の移動は難しいがプレイスのフォーラムですと、比較的行きやすい方もいますので継続して西部地区でもポイント交換を受け付けてほしいと思っています。

またポイント交換について、Q U Oカードとか図書カードありがたいという声も耳にするが、アマゾンギフトがもらえると嬉しいという声もあります。交換品にアマゾンギフトも追加できないか検討いただきたいです。

【事務局】 1点目、西部地区でのポイントの交換場所は引き続き課題だと認識してい

ます。令和5年度のサポーター交流会では、一緒にポイント交換を受け付けましたが、来年度については、サポーター交流会とは別日程で、西部地区の例えば市民会館等で事前に周知をしたうえで、1回2時間程度を交換の場として定期的に設けられればと検討を進めています。来年度実施し効果検証をしたいと思います。またボランティアセンター武蔵野への郵送によるポイント交換申請を受け付けていますので、その点も引き続き周知していきます。

2点目の交換品にアマゾンギフトを追加する件についても、どういうニーズがあって、どのような交換品が魅力的なのか引き続き検討していきます。

【委員】 当施設では、コロナがピークを迎えていたときには皆さんに自粛していただいたが徐々に拡大してきています。2年前に推進委員会で、コロナ禍にあっても園芸をやっている施設の例を知り、その例を持ち帰り当施設でも園芸の活動を取り入れました。

その他自宅でできる繕い物等をサポーターの方にやっていただきました。

コロナの影響も弱まりつつあるので、昨年度からデイサービスのお手伝いを再開させていただいた。養護老人ホームに、精神的に落ち着かない方がいらっしゃって、地域開放のスペースを使って傾聴ボランティアをしていただくことで、その方はかなり落ちつかれつつありますので、サポーターの方のご協力により大変助かっています。さらに、来年度は養護老人ホームでクラブ活動を再開しようと考えています

【委員】 当施設はボランティアさんの実登録が10名です。男女の内訳は、男性が1名、女性が9名となっています。男性の方には配食ボランティアを定期的にお願ひしています。傾聴ボランティアも3名の方が利用されていて、お部屋の中でこれまでのご自身の人生の振り返りとか、日本の地図やご自身のパソコンのデータをみて、1時間ほどその方のこれまでの経験を聞いていただいている。段ボールに新聞を張るといったレクリエーション的な活動の補助もお願ひしている。現状は以上でございます。

【会長】 いろいろな形で傾聴ボランティアの方々がご活躍されているというご報告をいただきました。その他、実際に活動されているサポーターの委員の方に活動のご感想をいただきたい。

【委員】 私の生活の中で3本柱として、終活・趣味・ボランティアをしています。初めにボランティア先の施設の方からのお話をいただき登録しました。現在は、月に1回、ナーシングホームでの昭和歌謡の会の補助をしています。

ナーシングでは、月に1回ブログを上げ、昭和歌謡の会の活動とブログで点数をいただ

いております。

他には、地域の活動で、コミセンとか福祉の会のニュース、広報を近所に配る活動を引き受けている。

このサポーターの人を増やすために、特に定年後 65 歳以上の男性に参加いただくのは難しいと先ほど話があったが、自分が実行委員をしているお父さんお帰りのパーティーでも、参加人数が年々減少していて課題となっている。

プレイスでの説明会のときに、パネル展示があり他の施設の活動も知ることができたのでとてもいいなと感じた。市民の目につかないと事業も拡大できないと思うので、様々な方法で周知いただければと思う。

【会長】 昭和歌謡の会のお手伝いをされているとのことだが、もともと昭和歌謡の会のお手伝いをしようとしてボランティアに入ったのか、それとも何かボランティアに関わろうと探しているうえで昭和歌謡の会と見つけたのかどちらか伺いたい。

【委員】 もともとナーシングではコロナ前に養護施設のカラオケのプログラムの補助をしていた。

私も昔、ボランティアセンターでちょっと仕事させていただいて、よく知っていたので、来てくれないかと言われて行きました。

【会長】 もともと若干関わりもあった上でやられたという形ですね。ただ、そのためにに入ったというよりは、それがきっかけになって、また新しいつながりができたということもポイントかなと思います。

私からも1つコメントなのですが、今これはすごく重要だなと思っています。ボランティアと言われたときに、ハードルが高くなってしまっているところがあると思います。少し話がずれちゃいますけど、能登の地震に関するボランティアでも同じことが行われています。特に、1月ぐらいには、素人のボランティアが入るなとさんざん言われたのです。でも、あのメッセージはものすごく逆効果になっている。あれを言い過ぎると何が起きるかということ、玄人のボランティアしか入れなくなる。だけど、玄人のボランティアはもともと皆さん素人だったと思います。素人が玄人になるきっかけすらなくなっていくという状況が生まれてしまう。しかも、ネット上で、ボランティアに行かないような人が素人ボランティアをたたくという非常に不毛なことが起きてしまった。

ただ、ハードルが高いボランティアももちろんありますが、それだけじゃなくて、日常的な、昭和歌謡のものでチラシを配ったり、一緒に歌の話をしたり、それを調べるたりと、

これも実はボランティアなのですよとか、園芸もボランティアですよとか、先ほどの交流会で、おもちゃを直すのも実はボランティアですよとか、すごくたくさんのものがボランティアで、ボランティアって物すごく真面目な人が意識高く持ってやらなきゃいけないのではなくて、正直、人と話すのは嫌いだけどおもちゃを直すのは好きですよという人も、実はボランティアできるということを見せていくことがすごく重要なのかなと思います。

ボランティアの多様性をどう見せるのかというところがすごく課題で、逆に言うと、こんなでもボランティアだったら俺やれるよと思える人をどう増やすのか。今のお話も、八島さんが、私はこんなことをやっています、これも実はボランティアですよというのを見せていくのがすごく重要なのかなと思いました。

先ほどのお話でも、園芸ができるとか、家でもこんなお繕いができる、これも実はすごく役立つし、ボランティアだし、しかもスタッフは助かっているというのはとても大事です。そういうボランティアの気軽さと多様性みたいなものをどう見せるかというところを、ぜひいろいろと検討いただければと今の話を伺って考えました。

あと、私から1点。交流会のことはすごくいいなと思ったのです。お話を伺っていても、説明会と既存の交流会を同時にやったことによって、さまざまないい効果が生まれたと思っています。そのあたり、特に現場の担当の方としてよかったことは何か。こういった課題があったからそれをどう乗り越えたいということがあれば、ぜひ伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】 交流会についてです。おっしゃるとおり、もともと交流会と説明会を別々に行っていたのですが、今年度はそれを1つにまとめました。

15 ページの一番上の写真が全体像になっています。まず、レイアウトの右奥のガラス向きになっているところがポイント交換申請で、左奥が説明会で、手前がその交流会とパネル展示になっております。

こういうレイアウトにしたきっかけは、説明会とかポイント交換を手前にしてしまうと、そのまま帰られてしまう方もいるので、初めてという方にも交流会に参加していただくために説明会会場を奥にしました。同時にやった結果、これ以外の説明会では、登録して最初に施設に連絡するのはちょっと気が重いというのがあるかと思いますが、一緒に開催したことで、奥で説明会を受けた後に、ポイント交換に来た既存のサポーターや施設の担当者と、手前の交流会の場所でお茶お菓子を食べながら雑談会みたいなのをしていると、新しく登録した方が雰囲気をつかめて、この施設にこういう担当の人がこういう活動をし

ているのだったら、ちょっと連絡してみようかなとなって、ハードルを下げることもできたかなと考えております。それが昨年と変えてよかった点だと思います。

今後の課題ですが、こういった交流会は、例えば既存のサポーターで活動していない方に参加していただいて、活動を再開するきっかけにさせていただくことが目的のひとつですので、参加者数を増やす必要があると思っています。

そのためには、ニュースレターで、もっと気軽に、簡単に立ち寄るくらいで、お菓子を食べるくらいで大丈夫というような、ハードルを下げて参加できるという、サポーターに対する広報の仕方を工夫する必要があるかなと考えております。

回答としては以上です。

【会長】 交流できる仕組み、まざり合うような仕組みを考えていただいている点がありがたいと思います。

【事務局】 交流会では施設の担当者は今回2名ということだったのですけれども、本当はもう少し担当者に来ていただくのも大事かなと。ただ、現場の担当者はとてもじゃないけど外に出ることは難しいので、その辺のご負担をかけない程度に協力施設のメッセージが届けられると、よりいい交流会になるのかなと感じました。

【事務局】 この写真にあります交流会の様子で、この配置もなかなか秀逸だなと思うのですが、ポイントの説明会を奥で受けた人、奥側の手前でポイント交換が終わった人というのがまさにこの絵なのです。パネルを見て、その中で座ってお菓子を食べながら参加者と話す。帰り間際にちょっとお茶を飲んでしゃべって、会長が言ったとおり、その活動にこのポイントが付くのかというのを雑談の中で横展開していたのが今回すごくよかったかなと思います。去年はお菓子とお茶がなかったというのもあって、一通りパネルを見てすぐに帰るといったかたが多かったと思う。今回の新たな試みもかなり効いているのかなと思っています。

先ほどのお話に戻りますけど、PRがすごく難しい。新規の掘り起こしはなかなか難しいですね。その中には、以前活動していた人もまた改めてつなげるというのがまさにこのコロナ以降の課題だと思っていますが、もう一点、登録しているけど離れていかないようにするというのもちょっと必要なかなと思っていて、そういうものの横連携をまさに交流会で雑談できればいいという狙いもあります。

せっかくつくったパネルを活用すればというのは去年もご意見としていただいていた、まずは制度に興味を持ってもらうことが最初かなと思いますが、今年度は既存のパネルを

借りて、市役所のロビーでも新たにパネル展示を数日間やっていました。社協さんとかボラセンさんのイベントにスペースが借りられたら、相乗りして、ちょっとでもこの制度の説明をする機会を設けられればと考えています。

【会長】 次年度は何をするかという話にも大分かかわってきましたが、今の実績報告について最後に発言はありますでしょうか。

【委員】 私も、この支え合いポイント制度ができた最初のころ、社協の方からお電話でお料理のお手伝いをやってくださる方がいらっしゃいますよというご連絡をいただいて、連絡をとって、お料理をしてくださるサポーターの方が来て下さった。でも、最近、私たち自身も支え合いポイントがちょっと遠くに行ってしまうというところがあったので、例えば西久保地域のこんなことをポイントでできますよというパネルをつくってコミセンに張らせてもらうという活動も検討したいと思います。こういうことでポイントをもらえますよというのをわかってもらうということは大事なことなので、掲示するのも、少しずつですけれども何かやっていくといいのかなということを考えております。

【会長】 まさに今言ったことは、マンパワーが足りないところもあると思いますが、それもボランティアの方々にやっていただいて大丈夫だと思います。パネルをつくるとかも、得意な方が実はいらっしゃる。場合によっては、この制度の支援ボランティアみたいなものもボランティアに入れてしまってもいいかもしれないと思いますので、皆さんができることはぜひ。現場の方々は、いろんなところで大変ですので、現場の方々の負担を下げることになりかもしれない。それが同時に皆さんの介護予防等につながるのがベストですので、いろんなことを考えていただければと思っております。

皆様、そのほか大丈夫でしょうか。では、また後で何か思いついたらおっしゃっていただければと思います。

（３）令和６年度事業計画

【会長】 （３）「令和６年度事業計画」につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】 事業計画案についてご説明させていただきます。

私から、事業計画案についてご説明させていただきたいと思いますが、11 ページの資料6「武蔵野市シニア支え合いポイント制度 令和６年度事業計画（案）」をご確認ください。

まず、1つ目の「現状」、「コロナ禍を経て、活動を再開したサポーターが増加しているが、活動をしていないサポーターが一定数います。活動を再開するきっかけ作りが必要」という課題が今年度も引き続きあると考えております。こちらにつきましては、右側の欄、昨年度同様、ニュースレターを年2回発行してサポーターの方に周知します。また、活動から離れてしまっているサポーターが再開するきっかけになるように、インタビュー記事や写真を掲載する等工夫をさせていただきたいと思っております。2番目の点として、園芸や手芸、オンラインでの活動等さまざまな活動があることを、ニュースレターを通じて周知させていただきたいと思っております。3つ目、サポーター交流会を引き続き実施し、他施設の活動状況やサポーター同士で活動の状況を共有する場を設けることと並行して、パネルを再活用したパネル展示を開催し、事業の広報をさせていただきたいと思っております。

「現状」の2「説明会の参加者が少ない」。説明会の参加者数は昨年度よりは増えましたが、コロナ禍の前ほどは戻っていないというところで、引き続き高齢者の方が多いイベントや会議等でチラシ等を配布して広報します。オンラインでの参加者はあまり多くないのですが、そういった需要もあるかと思いますので、引き続きオンラインでの説明会での受け入れ体制も維持します。3点目「出前による説明会を要望に応じて実施する」と記載させていただきました。こちらを記載した意図ですけれども、昨年度、親の家さんでご希望がありまして、参加人数も多くて、登録者数も多かったという実績がございます。説明会に来る方は、毎月の定例の説明会で事業を初めて知ったという方ももちろん多いのですが、中にはもともと施設でボランティア活動をしていて、施設の方に、ポイントがつくということを案内されたから説明会に来たという方も一定数いらっしゃいます。また、市交流会でも、あるボランティアの施設の方が20人くらいポイントの登録をしたくて、出張説明会を調整してくれないかという要望がございまして、今話を進めているところでありますが、もともとボランティアをしていて要件も満たしているが、この制度に登録していないという方が一定数いると感じております。既に行っている活動に対してポイントがつくので、そういった方に登録をしていただければと思っておりますが、説明会に行くことが少しハードルになっていると思います。

もともと出張説明会はメニューとしてはあるのですが、施設の方に手挙げでお声がけいただかないと、こちらも把握できないので、そのハードルを下げるために、施設の方にもお送りしているニュースレターで記事を大きく出して、各施設でボランティアの方はいる

けど登録していない方が一定数いる場合は、お気軽に事務局にご連絡いただければ、その施設で出張説明会を行わせていただくということを広報していきたいと思っております。

課題の3つ目「西部地区のポイント交換場所がない」というところです。交流会と同時にポイント交換申請を受け付けるのは引き続き行うのですが、2点目、冒頭でお話もありました交流会は、1日だけだと、その日ボランティア活動がかぶっていて参加できなかったというサポーターの方も一定数いましたので、別日程で、西部地区で市民会館等で交換だけの機会を設けることを予定しております。

「現状」の4つ目「サポーターの募集をしているが、サポーターの応募が少ない施設がある」というところです。受け付けはしているけれども実績がなかった施設が実績の表の中にあったかと思います。そこはサポーターの方と施設のマッチングがうまくできていないという現状があります。施設の中でも、人があまりいなくて何人欲しいとか、数人で大丈夫というところ、十何人欲しいというところがありますので、ニュースレターの記事の書き方で、施設の方の希望があればサポーターの方が連絡をとりやすいように目立たせるなど、工夫をしたいと思っております。

「現状」の5番目「協力施設の増加率が鈍化している」というところです。今、交流会で1件、ボランティア団体の方にお声がけいただいて、協力施設にする手続きを行っているところですが、件数としては1年前と変わっておりません。コロナ禍で、利用者を増やす広報があまりできていなかった部分がありましたので、来年度は協力施設を増やすために、「市内各団体の会議に出席し、事業周知を行う」というところや、ポスターも、もちろん市民の方に事業周知するという意図もありますが、バスなどに掲示して、もともとこの制度を知らない市内の各施設の人たちに向けての広報という意味でつくらせていただいております。そういった広報を継続して、高齢者のみではなく、市内の施設の、この制度を知らない担当者の方たちにも広報していきたいと思っております。

「説明会について」をご説明させていただきます。こちらは表のとおりになります。基本的には昨年と同じでございまして、10月にはオンラインとのハイブリッド開催を予定しているところでございます。引き続き出張による説明会を要望に応じて実施していきたいと思っております。

広報については記載のとおりでございます。

3「協力施設・団体について」で、施設から、ハンコが小さくて日付が見にくい、受け入れ施設側から意見を言える場がないというお声もいただいております。サポーターから

は「活動先が高齢者施設しかない。子どもの施設などでもできるとよい」という意見もいただいておりますので、こういったご意見を検討しまして、来年度対応できることがないかというところで検討を進めていきたいと思っております。

4 も、今年度と同様ポイント付与期間、交換申請期間は記載のとおり行わせていただこうと思っております。

事業計画案については以上となります。

【会長】 ただいま事務局より令和6年度の事業計画の案についてご説明いただきました。この案につきまして、皆様からコメントやご意見等をいただければと思います。もちろん、ご質問も構いません。何かございましたら、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

では、私から1つあります。「受け入れ施設側から意見を言える場がない」とあったのですが、同様に今、コロナが明けて、どのように回復していけばいいのかというところに関して、コロナで4～5年ボランティアをやっていなかったもので、受け入れノウハウが大分途切れつつあると思います。そういったところに他の施設がどうやっているのか。当然ながら、事業といっても施設の規模によって専門のボランティア担当がいるところもあれば、非常に小さいデイとかですと、当然ながら専用の担当者を置くことが不可能なところもあると思います。そういうときに、それぞれの規模感が違うところでどうやってボランティアさんのマネジメントをするか、ノウハウや、こんなことがボランティアでできますよみたいな受け入れ施設側に対する情報共有とか意見交換みたいなものを、特別に立ち上げると大変なので、事業者の連絡会とかで時間をいただくなどしながらやっていくといいのかなと思いました。

もう一つ、子どもの施設等に関して事業対象をどう広げていくのかというところは、今後の地域福祉計画でも、重層とかいろいろなものがありますので、やりやすくなる部分があると思います。これは積極的に検討していいのかなと思っております。

もう一点は、冒頭に酒井委員からの問題提起でもあった、男性に限らないのですがどうするか。今大きいのは、65歳になっても働き続ける方がとても多い。70歳ぐらいまで働く方は男性では4割を超えているわけです。女性ですら25%を超えていらっしゃいます。そうすると、65歳になって、あるいは60歳で定年したら仕事なくなるからそこにアプローチとは違う形になっているので、その方々に対してどういうアプローチをとるのか。

モデルみたいなものを見せていくというのは大事だと思います。例えば、65歳でちょっとお金に不安がある。そういうときに「シルバー人材センターもありますよ」とか、さらにその先にボランティアがある、あるいは前回もあったように、家族を介護施設等に預けたときにそことの関係があります、また元気になったらもう一回シルバー人材センターに戻っていただいてもいい。そういうことをやりながら、趣味や旅行にもぜひ行ってください、ボランティアだけで頑張るとは決して言わずに人生充実させたほうがいいですよ、そういういろんなことをやってもいいし、また戻ってもいいんだみたいなものを記事で見せていくとか、私はここでこんなふうやって、さらにこんなふうになりましたみたいなモデルを見せていくと、こういったふうやっていいんですねとなる。特に男性、あるいは女性も働いている方々は多いので、そういった方々に対するモデルみたいなものの可視化は今後のPRとして考えていってもいいかなと思いました。

長くなりましたが、私からは以上となります。事務局から何かありますか。

【事務局】 貴重なご意見をありがとうございます。まさに施設のほうでコロナ禍を経て回復していくところについてのアプローチが、おっしゃられたとおり、事務局として、そのやり方次第では、この活動をうまく盛り上げることができるのかなと思いましたので、まさに来年度の課題として行っていきたいと思います。

2点目、男性の方の取り込みをどうするかというのはずっと課題で、報告には出ていないと思うのですが、1点、先ほど交流会のインタビューをさせていただいた、おもちゃドクターに興味があってという方が、定年後に何かやりたいことがある、ただ地域に出るのはなかなか難しいとおっしゃっていたのです。自分の中では3点、地域にできるきっかけがあって、空いた時間があること、2点目が、その中でできる活動に楽しみを見出せること、最後は「見返り」という言い方をされていたのですが、ちょっとした、お金だけじゃない、ここで言うポイント交換、それが合致したからだとおっしゃっていたのです。それがまさに自分がやりたかったおもちゃドクターの活動で実現するというのがつながったということだと思います。そういうところも会長のご意見を踏まえて、やっていない方、今後可能性がある方にどういうモデルで見せていくかというのが、今後の方向性としてあるのかなと思いました。

子ども施設への拡大については、地域福祉計画を総合計画と一緒に一体的にやっておりますが、地域福祉活動の今後6年間の目標も掲げています。基本施策1の(3)で、先ほどお伝えしたとおり「シニア支え合いポイント制度の推進」という形にしております。こ

この「推進」に込めた意味としては、参加されるサポーターの数を増やしていく。それから、ボランティアができる施設や団体を増やしていく。この制度自体を、コロナ禍を経てどう推進していくかというところの思いを込めていますので、またこういう場で皆様から貴重なご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。

【会長】 そのほか皆様からいかがでしょうか。何かございましたら、ぜひコメントいただければと。

【委員】 事業報告案の3の「協力施設・団体」の「施設からの意見」で「ハンコが小さく、日付が変えにくい」ということで、私もたまに押しますが、非常に日付を変えにくいのです。これは早急に変えていただけると助かるかなと思いますが、いかがでしょうか。（「大変ですよ、あれは」「すごく小さい」と呼ぶ者あり）

【事務局】 ポイントをためていくこの手帳の枠に合わせているので、ハンコを変えるのかどうか、日付が要るのかどうかも含め、協議をしたいと思います。できるだけ皆さんが使いやすいところに配慮したいと思いますが、このポイント帳がこの事業のアイコンがあるので、この形を継続しつつ、どう押すかということを検討したいと思います。貴重なご意見をありがとうございます。

【委員】 私は今、境南の地域社協で活動していますが、日付の部分は空欄の、白いのにしてしまって、使ったときは手書きで記入になっています。

【事務局】 手帳を見るとすごくわかりやすいのですが、手書きで日付だけ入れている。

【委員】 それぞれスタンプというかハンコを持っている人と会わないともらえないのは面倒というのもあって、特に境南の場合は丁目活動や何かのときに押してもらったりするので、丁目の代表さんがもうシール状にしたものを持っている。それをもらって貼っていくみたいになっているのです。そんな形もあったので、日付のところは抜いているのだと思います。そうやって使っているのです、今のところ、スタンプはつくり直さないで、そのまま対応させてもらっています。

【事務局】 今のスタンプを活用して、日付だけ手書きするというのは、押す側の手間はあるのですが、手帳を見せてもらうと納得感がありました。事務局としては最後に交換するときに、ここで活動しているというのがわかればいいので、すごく参考になると思います。

【委員】 シールをつくって、押す人が持っているということですね。

【委員】 スタンプを押すなら、押した際に日付だけ書き込めばいい。

【委員】 コミセンにスタンプを置いてあるだけなので、一々取りに行ってやらなきゃいけない。シールを持っているというのはすごくいいかもしれない。

【会長職務代理者】 そのシールのラベルは買わなくちゃいけないわけですよね。そのお金は誰が出しているのかな。

【委員】 地域社協で、これは自分のところで独自に、こうやったほうが便利とってつくっているみたいですね。

【会長職務代理者】 それぞれで、効率よく運用することはいいことだと思います。

【会長】 ノウハウはちょっとしたものがあると思います。本当にちょっとしたことが面倒くさい負荷を下げていく。それこそシール代ぐらいいは大した額ではないと思うので、必要性があるのであれば市からも出せるか検討してほしいと思います。

でも、どこまでやっていいのか、こういう工夫をしていいのですかというのは皆さんわからないので、そういう工夫とか、こんなのはやってもいいですよとか、それこそ今の1枚写メを撮って連絡会で見せるだけでも、これでいいのだと十分わかるわけです。そういった小さい情報共有はすごく重要ですので、それを情報共有しながら、皆さんができるだけ楽に、こうやっていいのだということ、負荷を下げることを考えていただければと思います。貴重な意見をありがとうございます。

そのほか事業計画につきまして、皆様、何かございますでしょうか。

【会長職務代理者】 会長からいろいろご意見が出て、そうかと思ったのですが、シニア支え合いポイントを使うとか、それ以外でもいいけど元気で過ごしていくというところを可視化するというのはすごくいいなと私も思いました。

一方で、会長もおっしゃったように、70歳を過ぎても、75歳を過ぎても働いている。今は退職の年齢も上がってきている。しかも、年金のことも心配だったりする。皆さん、お金どうする問題はずっとあると思います。ただ、健康寿命と平均寿命のことを考えると、仕事を例えば70歳、75歳までするつもりでいました、ところが、ずっと言い続けているけど男性はどこかで調子を崩して、健康な状況がないままということもあるわけです。

もう一つ言うと、もうちょっと重要なのが、私は在宅介護を見ていると、女性が男性を介護することの圧倒的な大変さがある。体重が40キロを切っていたとしても、骨格が全然違う。体型が違うので、奥様が介護するのは、大変だし太っているご主人だったらなおのこと、どこをつかむかという感じで大騒ぎになります。車椅子を押すにしたって、押し

ているほうに危険があるというような、相当厳しい状況になるわけです。このシニア支え合いポイントで介護予防というところをこの目的の一番に挙げているところをもう少しみんなに伝える。可視化するときに、なぜこのシニア支え合いポイントがあるのかというところの根幹を皆さんにきちんと伝えることが必要だというのがまずあります。ニュースレターが情報発信になる。

先ほどから市の方は数を、去年よりも参加した人が増えたとか、施設が少ないとおっしゃっています。もちろん計画なので、数も重要なのですが、一方で、参加する動機づけとして、情報がないと、数にもなかなかつながっていかないと思うので、ニュースレターの中に、介護予防で、例えばこれからボランティアに行きますという前にまず家の中で一回足踏みをするとかストレッチして、施設に行ったときに調子を崩さないようにとか、そんなお徳感が1つ2つあるといいと思います。もう一つ言うと、前期高齢者は65歳、後期は75歳とか、そんな介護保険の知識もひそかに、ニュースレターのコラムみたいにしてやってくださるところがあると、自分がやっているものはこれなのかとどこかで入っていくと思います。

最後にもう一つ。会長が携わってくださって、もうすぐ10年になります。そうすると、65歳でやった人が75歳になるわけです。だんだん年をとってくる。やめどきがすごく難しく、ポイントをもらえるから頑張ってきているけど、実際はボランティアとしてよりも自分が施設の人にお世話されているという現状が将来的に出てくると思うので、サポーターなのにサポートが必要な人が出てきたときにどうするのかというところを見据えて、市の担当者と会長にいろいろ策を考えていただければなという、以上2点は要望です。

【事務局】 やめどきというのが、当初この制度では想定していないと点なので、年齢で切ってしまうとか、ここで卒業というのを設定するのはなかなか難しいかなと思っています。

ただ、昨年度のちょうど1年前の会議だったと思いますが、まさにこの介護予防とか健康寿命の延伸というところを考えると、その場に来てくれることが、その方にとっては重要なのかなというところで、この制度の趣旨を、きちっと伝えていくというところがまずあって、その中で、活動だけじゃなくて、そういう場に出てくることが重要であると認識しています。地域の互助の輪の中にかかわり続けるというところを伸ばすのであれば、そのためのポイントはつけていいのかなと思っています。卒業の線を引くのはなかなか難しいですけど、可能な限り関わってもらえるという方向で議論をまた進めていきたいと思い

ます。

【会長】 今ありましたように、この制度は介護予防であったり、孤立予防もあるので、その趣旨を踏まえながらやっていく。それから、五体満足じゃないとボランティアできないということでは決してないと思います。ボランティアというのは、例えば電話をするだけでもボランティアはできるし、家で繕い物をするだけでもボランティアはできるというところで、ボランティアのハードルを下げることを皆さんに考えていただくという形でいいのかなと思っております。

【委員】 私は民生委員もしておりますので、事業開始当初よりこの制度の説明は受けておりました。自分自身は手いっぱいボランティアをしているつもりなので、わざわざこれに入ろうとは思わなかったのですけれども、福祉の会でこれを取り上げるか、皆さんでさんざん話し合いをしました。皆さんのコミセンや地域の福祉の会のように、とても大変な思いをされる方たちがいらっしゃるとか、そのお世話をする方たちがたまたまうちの福祉の会にはいなかった。東のほうは支え合いポイントに参加している福祉の会はないのですけれども、これはやっていないけれどもボランティアはしっかりしていますという気持ちだけは、皆さんいっぱいあるのです。

本来ならば、みんな足並みをそろえてやればよかったのでしょうかけれども、福祉の会ごとには違います。私は今日、日赤奉仕団の立場から出ておりますけれども、日赤奉仕団は主立ってシニア支え合いポイントをしましょうという意見は出ておりません。それだけでなく、日赤奉仕団としてボランティアがしっかりしております。本当ならばそういうところもやらなければいけないのでしょうかけれども、ボランティアはもう手いっぱいかな。この場に合わない意見ですけれども、そういう感じでボランティアはしっかりさせていただいております。

【会長】 1点、私からコメントですが、全てのボランティアをこの制度に入れようという気は全くないのです。きっかけがない人々にとって、何か1個でもきっかけになればいいですし、既にボランティアをやっている方々が手一杯でありましたら、無理をする必要はないと思います。ただ面倒くさいだけでということだともったいないと思いますが、既にやっている方々に、これをやらなきゃだめだよと言う必要は全くないと思っています。きっかけとしてやり、ポイントが溜まってうれしいという人にとってはこの制度はとてもいいし、そうじゃない方にとってはしっかりゆっくり続けてもらう。いろんなボランティアの方々を多様な形で支えるための仕組みなので、無理なことはしな

くて大丈夫ということは私からお伝えしたいと思います。

そのほか皆様、ご意見はございますでしょうか。

では、3「議事」についてはこれで終わりたいと思います。

4 その他

来年度の日程につきましては、また改めて会長ともご相談の上、ご連絡申し上げたいと思う。

5 閉会

午後0時4分 閉会